

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味と人間の心的活動との相互関係について論じた評論からの出題。 本文の分量は昨年度より一頁ほど増加している。昨年度に引き続き、漢字の書き取り問題はなく、すべて記述説明であり、設問数も五問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(16行)に比べ17行と1行増えた。 本文の分量の増加、記述分量の微増もみられるが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。 昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問三がなく、全四問の出題となっている。 			

<本文分析>

大問番号	日
出典 (作者)	佐竹 昭広 「意味変化について」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
日	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 直前の「認識しなお」すことと、直後の「重要な示唆」の内容を明確にして解答する。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部以降から、自然がどのように「分割」(分節)されているかを丁寧に読み取る。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄2行) 比喩的な表現が指し示している内容を傍線部を含む段落の後半から読み取る。
		問四	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 文脈を的確に読み取り、「言葉」によって感情が作られる側面をわかりやすく説明する。
		問五	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄5行) 人間の心と言葉の意味との「相互関係」を明らかにし、従来と比較した意味論のあるべき姿としてまとめる。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 評論であれ隨筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体から的確に把握するとともに、個々の文脈を正確に押さえる読解力が不可欠である。
- 設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。
- 今年度も漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

<総括>	出題数 現代文 2題・古文 1題	試験時間 120分
<ul style="list-style-type: none"> 身体の変調を感じる「私」が、ふとみた「影」をきっかけに、自分の内に普段思っている自分とは別の自分がいることを感じ、自己意識を捉え返そうとするにいたる経緯を描いた短編小説からの出題。 解答行数が昨年よりも3行減少。 		

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	古井由吉「影」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	小説	問一 問二 問三 問四 問五	記述式 記述式 記述式 記述式 記述式	標準 標準 やや難 やや難 やや難	傍線部の内容説明問題。(解答欄2行) 傍線部の内容説明問題。(解答欄2行) 傍線部の内容説明問題。(解答欄4行) 傍線部の理由説明問題。(解答欄4行) 本文の主題を説明する問題。(解答欄4行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 昨年の文系三では評論からの出題だったが本年は小説が出題されたことも踏まえ、できるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- 問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考え方や思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間 120分
-----	--------------	-----------

- ・第17番目の勅撰和歌集の序文からの出題で、今までにない出題傾向である。
- ・昨年は、本文に漢詩（返り点付き）が引用されており、設問にもなっていたが、今年は、設問に漢文（返り点付き）引用され、設問になっていた。
- ・本文にも設問にも和歌がなかった。
- ・解答数は昨年と同じで5つであった。

<本文分析>

大問番号	三
出 典 (作者)	『風雅和歌集』仮名序
頻出度合 ・的中等	出典・箇所とともに稀
分 量 前年比較	分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・ 増加 ） 約650字（前年は約450字）
難 易 前年比較	難易（易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化）

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三 和歌集の序文		問一	記述式	やや難	現代語訳問題。「ことばを補いつつ」という条件が付いていた。 (1) 「いたづらに」「色を好む」「なかだち」などの語句の訳出と、「道」の具体化などがポイント。(解答欄3行) (2) 「ひとへに」「むね」の語句の訳出と、「かざれる姿」「たくみなる心」「いにしへの風」などの具体化がポイント。(解答欄3行) (3) 「こまやかなれば」の語句の訳出と、「姿たからむ」「心たらず」「さまいやし」の具体化がポイント。(解答欄3行) 説明問題。「何が、どのようにして、まつりごとの本となる」のかを説明する。 傍線部の前の「ことばかすかにして～上をいさむ」の内容をまとめるところがポイント
		問二	記述式	標準	説明問題。設問に同じ、『風雅和歌集』の真名序の一部を引用し、その漢文の意味を説明する問題で、さらに設問に「仮名序の対応する箇所を参考にして」と指示されている。漢文は「窃」「艶詞」などがやや難しいえ、返り点しか施されていてなく、仮名序の本文が漢文に正確に対応していないので書きにくい問題である。(解答欄2行)
		問三	記述式	やや難	

*難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・二年連続して珍しいジャンルからの出題で、いろいろな時代・ジャンルに慣れて必要がある。
- ・それ以前は有名出典からも出題されているので、『源氏物語』を代表とする中古の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・今年は和歌が出題されなかったが、これまで和歌が出題されているので、修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・漢文(返り点付き)の意味の設問が出題された。漢文(漢詩)については三年連続出題されたことを考えると、センターレベルの漢文を読む練習は必ずしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳が三題出題されているように、本文全体の現代語訳ができるかどうかが京大文系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに望まれる。